

# 令和4年度 第1回 富田林市交通会議レインボーバスのあり方検討分科会議事録

主管：富田林市 道路交通課

日時：令和4年4月26日（火）午前10時～12時

会場：富田林市役所 3階 庁議室

- 出席委員 11名  
柳原議長、酒井委員、中西委員、石田委員、西田委員、池田委員、松永委員、天堀委員、美馬委員、塩野委員（近鉄バス(株)寺井氏が代理出席）、秋元委員
- 欠席委員 2名  
南野委員、北野委員
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴人人数 3名
- 会議次第及び議事要旨
  1. ワークショップ
    - (1) レインボーバスのあり方についての意見交換  
冒頭、事務局からの前回会議の振り返りについての説明を受けて、柳原議長より本日のワークショップの構成について説明があった。  
ワークショップでは活発に意見が交わされ、各委員からの多様な意見をもとに近畿運輸局及びバス事業者から講評があった。各委員からの意見及び講評は以下議事概要のとおり。
- 資料
  - 資料1 委員名簿
  - 資料2 配席図
- 議事概要
  1. ワークショップ
    - (1) レインボーバスのあり方についての意見交換  
柳原議長 本日はワークショップ形式ということで気軽に意見を出していただきたい。卓上に路線バス・病院送迎バス・レインボーバスの路線図が書かれた市全域の白地図がある。また、資料として各路線の時刻表等を置いてあるので、具体的な路線のイメージをもって意見を出していただけるかと思う。  
前半の部としては、これらの資料を見ながら現状に対するご意見を出し合っていたきたい。  
後半の部としては、各委員の意見を受けて、現状のレインボーバス

路線の改善点や、このバス停は不要ではないか、あるいはここには新たにバス停が必要ではないかなどの、皆さんが思う形の理想像を実際に白地図に書き込んでいきたいと考えている。

前半・後半の部が終わった後は、いったん各委員の意見をまとめて、バス事業者や近畿運輸局からそれぞれの立場で講評をしてもらう。意見交換に入る前に前回の会議の振り返りとして簡単に説明する。前回の会議で各委員から出された意見としては、まずは既存路線バス等と輻輳をしているということ、また、料金設定が路線バスの半額程度になっているということ。また、コロナ禍の影響もあり利用率が減少したことにより、収支率がかなり悪化しているということ。レインボーバスが廃止になっても困らないという意見と、現状の路線ではなく他の交通不便地域に回したほうがいいのかという意見もあった。

今回は、前回会議での意見を踏まえて、掘り下げた話が出来ればと思う。

まずは、自己紹介も兼ねて、普段移動する際にどんな点に困っているか意見をいただきたい。

- |      |   |
|------|---|
| 天堀委員 | 観光という点では、ちょっと不便もある。やむを得ない点もあるかと思うが、レインボーバスの便数も少なく感じる。   |
| 美馬委員 | このコロナ禍で出歩かなくなった人も多い。レインボーバスを使うことはほとんどない。  |
| 石田委員 | レインボーバスは輻輳の問題がある。であれば、交通不便地域に巡回をするような形にしたほうが利用率も上がるのでは。個人的には車に乗ってどこへでも行くので、今は身近な問題としては考えていない。   |
| 池田委員 | 最寄りの駅まで遠く、歩いて15分かかる。高齢の方で30分かかるといふ方も知っている。富田林市内に行くときは電車に乗る。金剛地区に行くときは富田林駅からバスに乗る。レインボーバスは費用が安く良いものだと思うが、長年富田林に住んでいても1回しか使ったことがない。もったいないことと思う。 |
| 松永委員 | 比較的、富田林は交通手段が充実している印象がある。ただ、富田林市内でも、まったくバスが通っていない地域もある。高齢者の方で免許を返納する方が増えているので、その方たちの交通問題を考えていかないといけないと思う。                                     |
| 西田委員 | 個人的にレインボーバスを使用したことはある。以前、総合体育館に運行していたが、富田林病院については病院送迎バスが既にある  |

中で、あえて行く必要があるのか。また、ケアセンターも病院送迎バスが行っているのので、レインボーバスが行く必要はないのでは。毎日レインボーバスに乗っていて無くなったら困るという方も知っているが、全般的に見るとレインボーバス自体が必要なのかとも思う。

であれば、むしろ、金剛連絡所を起点に巡回する金剛地区周りのレインボーバスと、富田林側とで運用を分けるのも一つかと思う。そうすれば、バス車両は2台になるが、もう少し不便な地域にも巡回できるのでは。レインボーバスが小型化したため、今まで小学校や保育園等が団体で利用されていた場合でも使用しにくくなったのでは。色々な点で検討していかないといけないと思う。

柳原議長 色々な意見が出たが、改めて白地図を元に意見を出していただきたい。

天堀委員 金剛駅にも、やはりレインボーバスが行ったほうがいいのではと思う。また、この場にいる委員もあまりレインボーバスを利用されていないという点を鑑みても、そもそも公共施設を周遊する形でのレインボーバスが必要なのか疑問に思う。

美馬委員 レインボーバスの必要はあると思うが、あまり利用はされていない。高齢者の移動に対して、何らかの補助や、乗り合いタクシーのような制度を設置してもらえればと思う。金剛団地にしても、一番端からであれば金剛駅まで行くには時間がかかる。乗り合いタクシー等の制度があれば便利かと思う。

柳原議長 金剛団地の中を走るバスは現状まったく無いのか？

美馬委員 病院送迎バスが回っている。

石田委員 交通不便地域、運賃の問題もあると思うが、レインボーバスは金剛地域に偏りすぎていると思う。佐備など、交通不便地域にも走らせてほしい。

池田委員 レインボーバスは運賃も安く良いと思うが本数が少ないのがもったいない。もしくは、どこかから補助を出して、既存の路線バスの運賃を安くすることはできないのか。やはり、既存バスは運賃が高い。それから、交通不便地域にもレインボーバスを運行してほしいと思う。

松永委員 交通不便地域の免許返納をした方や、幼い子がいる家庭が利用しやすい制度になればいいと思う。錦織にある大谷大学を經由できれ

ば、大学生が乗ってくれて市内の公共施設も利用してくれるのでは。また、地図を見ると富田林病院送迎バスが広範囲に行っているの、レインボーバスと一体化すればいいのでは。病院利用者は無料で、他の停留所に降りる人は料金がかかるという仕組みにすればいいと思う。

西田委員 運行便数が1時間に1便以下というのが利用を減らす一因であるように思う。

柳原議長 市民委員6名の中には普段からのレインボーバスの利用者がいないということが分かった。もし普段からの利用者がいれば若干違う意見になるかもしれないが。  
出た意見をまとめると、交通不便地域に運行したほうがいいのではということと、病院送迎バスと輻輳している部分が多々あるため一体化できればいいのではということ。また、公共施設を巡回しているがそもそも公共施設を利用しているのかということ、これは市役所にて実施しているOD調査から読み取れるのではないかと思う。  
あとは、金剛駅に行ったほうがいいのではという意見もあるが、この辺りは既存路線バスとの輻輳の問題も出てくる。本数の少なさについての意見もあった。  
続いて、後半の部として、各委員の意見を元に白地図に理想的な路線を書き込んでいきたいと思う。

西田委員 病院送迎バスが充実しているため、ケアセンターと富田林病院をレインボーバスの停留所から省いてもいいのでは。  
もう一つは、金剛連絡所を起点にレインボーバスを1台巡回させてはどうかということ。久野喜台、青葉、五軒家、加太方面はどうかルート工夫すれば走らせられないか。バスが無い地域なら路線バスと輻輳もしない。彼方地区から南側等、富田林市内でも公共施設もなく車なしでは生活できない場所もある。金剛地区でも北側は何もない。

石田委員 板持はまだ路線バスが東条のほうに向いて出ている。  
不動ヶ丘あたりまではバスが行っていない。

西田委員 別の話になるが、地域を活性化するためには、サーバーファームにも行けばいいが。送迎バスもあったと思うが土日しかなく、車椅子対応ではなかったと思う。

天堀委員 レインボーバスの送迎バスは、今は無くなっていると思う。

松永委員 富田林病院の送迎バスが広範囲に走っているの、レインボーバス

と一本化できれば経費も削減できるのではないか。

- 池田委員 病院送迎バスは、日曜日が休みになっている。
- 柳原議長 一本化すると日曜日にも運行させるかということになる。
- 松永委員 レインボーバスは初めの頃は全体に走っていたとのことだが。金剛地区だけが残った理由は。
- 事務局 全体で走らせていたのは平成15年から17年までの2年半のみとなる。当時利用者が少なかったため、金剛地区以外は廃止されたと聞いている。
- 西田委員 どうしても乗降客が少ないということで、ルートを減らして今の状態になっていると思う。
- 柳原議長 費用面は一旦横に置いて議論しているが、実際走らせるとなると、やはり費用対効果は重要になる。当然ながら、路線バスも含めこういった公共交通で儲かるということは、恐らくほとんど無いと思われるため、一部、公共が負担することになるかと思う。しかし、地方財政が厳しい中で公共からどこまで補助ができるのかという問題もあるため、今は、費用面は一旦横に置いて意見を出していただければ。  
美馬委員から先ほど発言のあった乗り合いタクシーについてももう少し聞きたい。
- 美馬委員 乗り合いタクシー制度を作ってもらえればと思う。現状、車を持っている者が持っていない者を乗せて送り迎えしているが、車を持っている者自身が高齢化により難しくなっている。タクシーを利用した場合、費用が高く個人に負担してもらうのにためらいがある。そんな状況で、だんだん行動がしにくくなっている。
- 柳原議長 巡回ではなく、タクシーの相乗り化を進めるような仕組みづくりということである。
- 池田委員 不動ヶ丘は、希望者は一年のはじめに料金を支払い、後は200円の券を買って利用したときに使っていく仕組みがある。
- 柳原議長 不動ヶ丘は地域住民のボランティア送迎を実施している。
- 天堀委員 観光面では、富田林市内の話だけではなくなってくるが、例えば楠木正成の縁の地を周遊する際に、楠妣庵さんとか生誕地が違うルー

トだったりするので、そこを行こうとすると結構歩かないといけない。そのため、富田林駅まで戻ってきてまた違うルートに乗り換えてもらうという案内になったりするので、観光地の周遊ができればいいと思う。

各委員の意見を聞いていると、やはり困っているのは、車を手放された高齢者の方や、車が事情によって乗れない方にとって、レインボーバスは不便なのかなと思う。

そういった人たちが移動しやすい手段を、レインボーバスに限らず、乗り合いタクシーや金銭面の補助等、別のやり方を考えてもいいのでは。

柳原議長 車を手放した後に駅前に引っ越しできればいいが、なかなか生まれ育った地を離れて突然駅前に住もうというのはできない人もいる。そういう方が交通不便地域に住んでいて、車が無くなると出かけるのが困難になる状況がある。  
全体的に高齢化していくなかで、今後も地域に住み続けられるのか、地域として持続可能性があるかというところを考えると、交通手段がないと難しい。  
他、何か意見があれば。

美馬委員 高齢者の独居世帯がかなり増えている。子どもが出ていき、夫が先に亡くなった独居の女性が多く、地域の会長が手助けしている状態。  
買い物に非常に困っている。  
スーパー等に行くにしても、足としてはバスがあるにはあるが、買い物に行くには遠く、費用面でもやはり高い。

柳原議長 富田林市は病院に行く送迎バスは充実しているので困らないかもしれないが、買い物に困っている方も多ということだと思う。  
歩ける人はいいが、そうでない人は特に困ることになる。  
他、買い物について困っている事例を見聞きしたことがあれば伺いたい。

西田委員 彼方地区から南は公共交通機関がなく、困っておられる。富田林市よりも河内長野市のほうが近い。

石田委員 スーパーにタクシーで行く方は見かける。

池田委員 錦織地区にはスーパーがない。コンビニくらいしかない。

松永委員 錦織のコンビニで野菜を購入されているのを見かけたことがある。値段も少し高いため不便と思う。

- 西田委員 コンビニに依頼をしたら配達してくれる店舗もある。
- 松永委員 買い物も一つの楽しみとして、付き添いが必要であっても高齢者の方の精神的な楽しみを増やせたらいいと思う。
- 美馬委員 生協みたいに配達サービスをしている事業所もある。
- 天堀委員 富田林駅の前にできたスーパーで、移動販売の準備をしているところを見かけた。どのあたりを走っているかは分からないが。
- 事務局 移動販売をされているのは聞いているがどこを走っているかまでは把握できていない。
- 西田委員 毎回でなくとも、日も曜日も決めずに何人か集まったら来てくれるような移動販売車があればいいと思う。
- 柳原議長 買い物ツアーバスのような。
- 西田委員 買い物に限らず。また補足にはなるが富田林病院の送迎バスは車椅子昇降用のリフトがついていないバスが多いようにも思う。時間帯によって走っているのか分からないが。
- 柳原議長 民間で移動販売サービスをやってくれるのは有難いこと。  
後半の部では買い物についての意見が結構出てきたが、買い物交通というのは非常に重要であり、特定のスーパーに行くためにこの地域の方たちが困っているとか、あるいはこの地域の方たちは買い物困難な地域であるということも明らかにしていけば、そういった地域にレインボーバスがあまり使われていない、もしくは必要性がないといったところまで議論ができるかと思う。
- それでは、近畿運輸局とバス事業者にこれまでの意見を聞いての講評をお願いしたい。
- 中西委員 各委員のご意見を伺うと、全般にレインボーバスがいないとか、見直した方がいいのではないかという意見が多かった。意見にあったレインボーバスと病院送迎バスの統合など、新しいものを作るというよりは既存の資源を活用できれば、既に富田林市内を走っている南海バスや近鉄バスといった路線バス等の優れた資源の活用を更に進められるのではと考える。  
病院送迎バスは便利ではあるが、介護バスとしては少し困る時があるという意見もあったので、レインボーバスについてあり方を見直

した分の予算をバスの補助というところで活用できればいいのではと思う。

酒井委員

委員のレインボーバス利用実績があまりないということで、もし委員の中に頻度の高い利用者がいればまた違う意見もあったかと思う。

レインボーバスを無くす、あるいは交通不便地域に巡回させるという意見もあるが、交通不便地域で運行していくにあたり、利用者数が少ないと、なぜ市の補助で利用者が少ないバスを走らせるのかという意見がまた別途出てくるといったこともある。

別の地域の事例になるが、市から補助を出さずに自治会が運行補助をしてハイエースのバスを定時定路線で運行し、地域で定期券や回数券を購入して路線維持をやっておられるところがある。

今後は、市の補助ばかりではなく、自治会の協力も不可欠であり、協力して路線バス等の維持に繋げていっていただければと思う。

秋元委員

特に交通不便地域での高齢者の方の移動は、切実な問題と改めて思う。その裏側で我々路線バスの走っている地域のバス停の近くでは、少なからずとも何とかお役には立てているかと思う。

バス事業者の立場から少しご理解いただきたいのは、民間企業であるため赤字になると、その事業の縮小や撤退をしていかざるをえない状況にもなる。レインボーバスと路線バスとの運賃は格差があり、個人的にも思うが、やはり安い手段があればそちらを利用したくなるのは自然なこと。レインボーバスと路線バス、病院送迎バスが輻輳している状況が解消せずにおしほ拡大をしていくことになれば、路線バスの利用者及び収入が減ることが予想され、路線の本数を減らす、もしくは無くす、といった判断をしていかないといけない。

レインボーバスについても、昔は広範囲を走っていたが利用者が少ないため無くなったというご意見もあった。

路線バスは1時間に3本から4本程度本数があるが、減便になると今ご利用いただいている方々が不便になるため、ご配慮をいただければと思う。

塩野委員代理  
寺井氏

既存の路線バスを地域公共交通の基本として考えていただいているのは有難いと思っている。今後高齢化していく中で、基本となる路線バスを守っていくということと一緒に考えていただければと事業者としては思っている。

柳原議長

色々な課題があるが、今回のワークショップの後半部分では、買い物困難な地域、あるいは車椅子対応のバス車両が少ないという意見もあり、レインボーバス以外の部分でも様々な課題を抱えていると



ということが分かった。

また、高齢者や子育て世代、若者世代等、車で移動ができない世代については、個人の移動手段だけでは対応ができない。この先、路線バスの利用者が減少し、減便もしくは廃止となると、公共で代わりができるかという点恐らくはできないので、何とか民間事業者を残しつつ隙間の不便な部分を公共と地域住民とで協力してやっていくしかない。地域で公共交通機関を利用する、民間事業者とともに公共交通を支える、という部分についてもこの交通会議で考えていけたらと思う。

以上